

ワイズは、「ごっこ遊び」？

おててつないで 東山荘にいこう

横浜国際大会の「環境保安官」

お父さん役のなり手がいない！

2010年9月12日 東日本区1998～2011 ヒストリアン 吉田 明弘

おててつないで 東山荘へいこう

蔓珠沙華忌。

工藤徹さん(川越)が事故で亡くなられて4年目の9月です。

ワイズメン歴8年、区役員を務められたわけでもないのに、これほど広く多くのワイズメン、ワイズメネットに影響を与えた方は珍しいと思います。旧庄内・鶴岡藩の出身であることを誇りにされ、信義を重んじて筋を通す方でした。そして誰にも慕われていました。「人間力」という言葉に触れると、工藤さんが思い浮びます。

その工藤さんの常識と、ワイズダムやワイズメンの常識、風習がしばしば食い違うことがあって、何度かお話をしたり、通信を交わしたことがありました。

あるとき、こんな会話をしました。

「東日本区大会(2000年)のテーマソングが『おててつないで、東山荘にいこう』ですが、あれでいいんですか？」

「いいんですかと言われても?!」

「大人が歌う歌ではないと思います。さんに意見を聞きました」

「なんと言われました？」

「『ワイズは大人の幼稚園ですから』と!」

うまい表現だと感心しましたが、譬は、一面性ですから、当然のことながら、ワイズは多面性。イコール、幼稚園ではありません。

組織規模については、ワイズメンズクラブは、加盟71カ国・地域、会員3万人ですから、加盟125の国・地域、会員数4,500万人というYMCAとは比べものになりません。しかし国際協会は、国連経済社会理事会の特殊協議資格を取得しています。ということは長年の活動実績

が世界的に認められている団体であるという一面も、あります。

山火事における「ハチドリの一滴」ではありませんが、問題提起と感動を与えられる力もっていますし、国際組織としての柔軟性、機動力、集中力もあります。

しかし、ここでは、このことには深く触れないうで、話を「幼稚園」中心に進めます。

私は、ポール・アレキサンダーに叱られるかもしれませんが、ワイズメンズクラブは、「ごっこ遊び」のようなものだと思っています。私たちが、その中で役割をどう演じるかです。

横浜国際大会の「環境保安官」

今夏の横浜国際大会では、「環境保安官」が登場しました。

ワイズの「祭典」というこれまでの大会プログラムの流れと、今回の大会のテーマである「環境」とを融合させるのは難題で、「道化」が必要だと判断したからでした。

この保安官のヒントは、40年以上前の東京目黒クラブの山中湖家族キャンプにありました。この家族キャンプは今も続いています。

幼児や年長者を含めて100人以上が、4日間を過ごすのですから、最低の規律は必要です。しかし、遊びですから、あまり細かいことを注意したくもありません。その部分を担ったのが「保安官」でした。

当時、メネットだった(後にメンバー)故鈴木節さんが毎年、隊長をつとめ、数人の若い女性を配下として、治安維持に努めました。

実際には、事件を取り締まるというよりも、事件をでっちあげるわけですが、摘発に対して

弁護士が登場するなど、食後のひとときを盛り上げ、同時に緩やかにルールをキャンパーに示していました。いわば「ごっこ遊び」でした。

国際大会の保安官（グリーン・シエリフ）には言いたいことが言えて、しかもケンカにはならない人を選びました。隊長は、山崎常久さん（東京江東）に頼みました。

彼は、2年前の東京 YMCA インターナショナルチャリティーランに出場した東京江東チームの若手監督でした。成績は、参加 88 チーム中 68 位でしたが、他のチームが缶ビールで疲れを癒している時に、チームに円陣を組ませて、ハッパをかけていました。

「今日はこのような結果に終わったが、この屈辱を胸に、これからは4位、3位と・・・」

本気が冗談かは、判りませんでした。どちらにしてもその真面目さが買われました。

遊びは、役割になり切って真剣にやらないと面白くないのです。

ワイズは、「ごっこ遊び」

前に書きましたが、ワイズメンクラブにおいて、会長も、部長も、国際会長も、あるいは例会の司会も、受付も、さらには、奉仕事業も「ごっこ遊び」みたいなのがあります。

では、「ごっこ遊び」だけで、完結してしまうのでしょうか。

クラブの最終的な果実は、例会、親睦、奉仕、クラブ運営を通して身に付けるメンバー個人の「人間力」であるように思います。

いい大人が、童心にかえって子どもの遊びをするのが、「大人の幼稚園」ではありません。大人の「ごっこ遊び」は、もっと複雑で、時間がかかり、時にはお金もかかります。その中で、時には、笑い、議論し、怒り、心配し、工夫し、喜んで、肩を組みながら磨かれていくのです。よくいわれる「楽しくなければワイズではない」というのは、そこを指しているのだと思います。

鬼ごっこでは、鬼は、いつまでも鬼ではいませぬ。電車ごっこの運転手さんも、次にはお客

さんになります。もう前の役割を忘れているのです。ワイズの世界でも、クラブや部や国際で、役割に「元」とか「直前」とかが付いた肩書があります。役割には責任や苦勞が伴いますから、「元」に敬意は払うのが当然です。しかし、だからといって、その人に特別な権利があるわけではなく、義務も同等です。ワイズの場合は「元」にもっと厳しいようです。

余談ながら、東日本区の本年度の各クラブのプリテンエディターのうち、5人は元理事です。そのほとんどが、冠に「万年」をいただいています。

お父さん役のなり手がいない

数年前に、幼児の「ごっこ遊び」について、論文が発表されました

保育施設で、子どもたちに「ままごと遊び」をさせようとしても、お母さん役に人気がなく、だれにやってもらおうかで保育士さんは苦勞するそうです。

もっと大変なのはお父さん役のなり手がいないことです。男の子に無理に頼んでやってもらいますが、ぼーっと立っているだけで、「ちょっとゴルフの練習に行ってくるかな」と言って、出かけたまま、帰ってこないそうです。

子どもたちに人気があるのはご飯も作らず、取り仕切りもしない、会社に出掛ける必要もない、赤ちゃん役だと書かれていました。

困ったことだと保育士さんは憂いますが、お父さん役、お母さん役のなり手がいないのは、日本のワイズメンズクラブも同様です。

みんなが赤ちゃんになりたがって、「おっばい飲んで抱っこされて」では、組織が成り立ちません。どこに問題があるのでしょうか。

「ごっこ遊び」だからといって、決して軽いこと、どうでもよいことではありません。ワイズメン運動においては、「国連の資格」に匹敵する大きなものです。時にはそのことに、われを忘れては夢中になれる人こそ、ワイズ運動の「主役」であり、「継承者」なのです。

心に残るひとこと 「勉強したいと思っ
ておるんであります」

1982年、山田利三郎区理事の時の区報（129号）で、この夏に亡くなった塩月賢太郎・日本YMCA 同盟総主事と元国際会長の鈴木謙介さん（大阪）の対談をしたことがありました。

対談の息抜きの時に、鈴木さんは、「私は、まだまだワイズメンズクラブについて、勉強したいと思っ
ておるんであります」と言われました。

鈴木謙介さんは、太平洋戦争前の上海クラブからのワイズメン。国際会長を務められて、ワイズメンズクラブについて知らないことはないという存在でした。さらに何を学ぼうとされていたのでしょうか。

その数カ月後、鈴木さんは新設された大阪センテニアルクラブに移られ、書記を務められました。

「ワイズの信条」の普及度

東日本区のロースターの表紙裏に『ワイズの信条』が、掲載されています。

現在、東日本区では、どのくらいのクラブが例会プログラムの中で、この『信条』を唱和をしているのでしょうか？

『五つ誓い』ともいわれていますが、11月になったら取り上げたいと思っています。

この『ワイズの信条』は、いつ、どなたが作られたのか、明らかでないのです。多分、30年くらいの間のことなのですが、不思議です。

『ワイズの信条』について、お考えがありましたら、お教えください。

あとがき

工藤さんが交通事故に遭われた前日、東京西クラブのウォーキングで、曼珠沙華（彼岸花）が咲く、埼玉県の高麗の里・巾着田に行きました。そこで工藤さんから送られていた川越クラブのファンレイジングの「紅あか」販売の注文書で参加者から注文をとりました。

翌日、悲報を聞き、封筒の中を確認しましたら、「差支えなければウォーキングに参加して注文を受けます」との手紙が残っていました。高麗の里と渡来人の資料、ブリテンなどとも同封されていたので気付かなかったです。こちらの返事を待っておられたかも知れません。もし手紙を見ても、体調が悪いとうかがっていたので、ウォーキングの参加はおすすめしなかったとは思いますが・・・。

もうひとつ、事故の時、工藤さんは一冊の本を持っておられたそうです。実は、その本は、私がお貸ししたもので、以前に読後感をおたずねしましたら、まだ読み切れていないとおっしゃってしました。

もし、このどちらかで、こちらの動きが少しでも変わっていたら、事故には遭われなかったのではないだろうか、今でも胸の底に「しまった」という思いがあります。

今号は、思い出話が中心になりました。『Historian's View』も早くも12号となりましたが、いまだに編集方針と紙面構成が定まっていないのです。最後まで、こんな感じで進んでいくのかもしれませんが。

今後、考えられるテーマは、次のとおりです。

- ・部はクラブにとって最も近い「国際」
- ・部のネーミングとイメージ
- ・職業分類とロースター
- ・ワイズの信条
- ・国際大会のテーマ「環境」
- ・ワイズにおける選挙
- ・例会と他クラブ訪問
- ・ワイズソングの詞と曲
- ・継続するIBCとDBC
- ・ワイズの内部広報メディア
- ・読まれるブリテン

もっと大きなテーマもありますが、身に余るものなので、見送っています。

こんなテーマで、あの人に書いてもらいたい、あるいは、誰と誰で対談したらというようなご提案があれば、お寄せください。